

51 山上の説教(垂訓)

マタイによる福音書 5:1~2 山上の説教(5~7章)を始める(序文) ←時代背景:十二使徒の選抜直後

イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた(→真実を解き明かされた)。

→マタイによる福音書では、イエスは、教え、祈り、一人になる目的でしばしば山に登られたことが記されている(14:23、15:29、17:1~2、24:3、28:16)。これは、モーセがシナイ山に登ってイスラエルの民に教えるべきことを神から学んだのに似ている(出エジプト記19章)。

また、当時は、教師(ユダヤ人教師)は教えるときに座って教えるのが常であった。

⑨山上の説教が語られたのは、まだ旧約の律法の時代であった(イエス・キリストの十字架の死によって、新約時代が始まる)。

【参考】エレミヤ書 31:31~33 (古い契約と新しい契約の預言)

見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだもの(→モーセ契約、シナイ契約)ではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる。しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、(聖霊によって)彼らの心(の板)にそれを記す(→キリストの律法:イエス・キリストの十字架の死から新たに始まる、新約時代(=恵みの時代)における律法の正しい解釈→ガラテヤの信徒への手紙 6:2)。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

ルカによる福音書 6:17~19 おびたしい病人をいやす(マタイによる福音書 4:23~25)

イエスは彼らと一緒に山から下りて、平らな所にお立ちになった(→「山上の説教」(マタイによる福音書 5:1~7:29)に対して、「平地の説教」と呼ばれる、6:20~49)。大勢の弟子とおびたしい民衆が、ユダヤ全土とエルサレムから、また、ティルスやシドンの海岸地方から、イエスの教えを聞くため、また病気をいやしていただくために来ていた。汚れた霊に悩まされていた人々もいやしていただいた。群衆は皆、何とかしてイエスに触れようとした。イエスから力が出て、すべての人の病気をいやしていたからである。



【参考】旧約時代、中間時代(沈黙時代)、新約時代

旧約聖書 Old Testament へブライ語(一部、アラム語) → 旧約時代

↓ 中間時代 intertestamental period = 沈黙時代 (400年の沈黙の期間) → メシア待望の時代

新約聖書 New Testament ギリシア語 → 新約時代

※中間時代の支配者 ペルシア→ギリシア(アレキサンダー大王) → シリア(セレウコス朝)
→ 独立時代(ハスモン朝) → ローマ

【参考】七十人訳聖書

現存する最古の旧約聖書の翻訳の一つで、ファラオの命によりへブライ人の經典(旧約聖書)をギリシア語に翻訳した聖書であると伝えられ、BC3世紀中頃からBC1世紀間に、徐々に翻訳・改訂された集成の総称。ラテン語読みで「セプトゥアギンタ Septuaginta」とも呼ばれる。